

令和6年5月度

## ネットパトロール記録

### 概要（傾向・事例等）

5月に入り教室は落ち着き、夏の大会等に向けて部活も活発になってきている時期です。新中一生は違う校区の生徒たちと、新高一生は県内全域の生徒たちと出会い、競い合って、新たな交友を結ぶ機会が増えてきます。大会などを終えたあとも、ネットを介した交流が続くことはごく日常的なことです。その際に一つ気をつけたいのが、「友だちの友だち」との交流です。対面の交流とは異なり、ネットでの交流は相手のごく一部しか見聞きすることができません。当然ですが、自分のことごとく一部しか相手に伝わりません。同じ学校の生徒とは違い、ネットでの交流を補う、対面での交流の機会が限られるため、思わぬ誤解やすれ違いが起りやすい状況です。ネットで知り合った同担等であれば、「会ったことがない」と意識しやすいところが、友だちの友だちだと「会ったことがない」ことを忘れてしまうかもしれません。友だちの友だちを疑え、ということではなく、会ったことがない人だ、という意識をもって接することが大事です。そうすることで、対面したときの印象とネットの印象が異なる場合でも受け入れやすくなります。

### 今月のおねがい

～友だちの友だちって誰？～



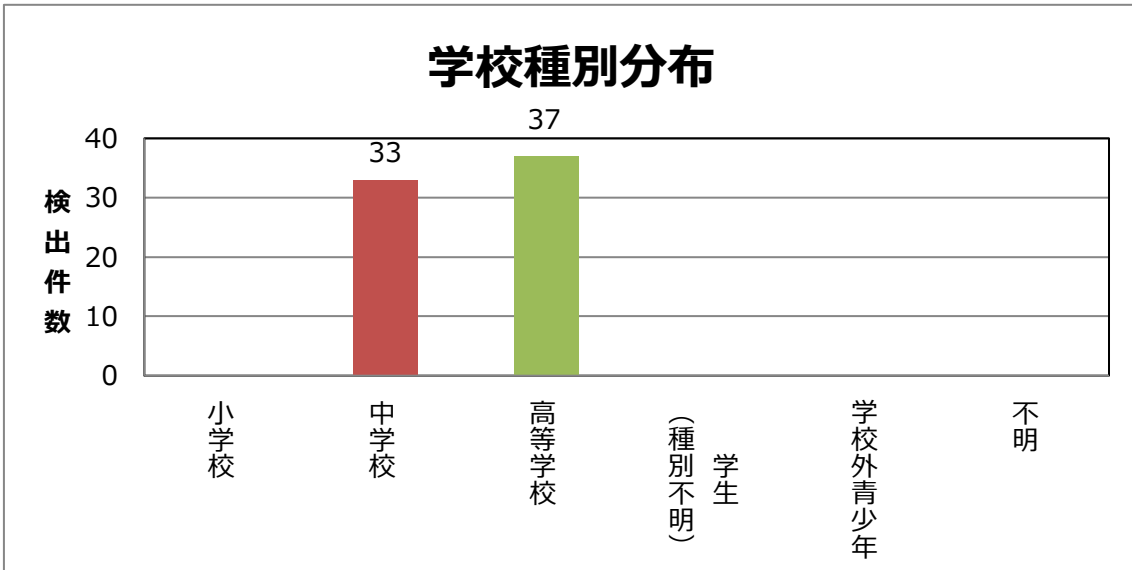
18歳未満の青少年の犯罪被害に関する警察庁の資料に、自撮被害での被害者と加害者との関係が示されています。それによると、最も多くを占めた関係が面識のない者で、81%に達しています。面識のない者を、相手がだれかはっきりとわからない人ととらえると、友だちの友だちは面識のない者に近い存在と言えます。知っているようで知らない人、と言い換えると分かりやすいかもしれません。ネットもリアルである現代の青少年だからこそ、境目を見ることが難しいのかもしれません。身近な青少年がトラブルに遭遇した場合でも、大人の物差しだけで非難しないよう気を付けましょう。

### 検出件数

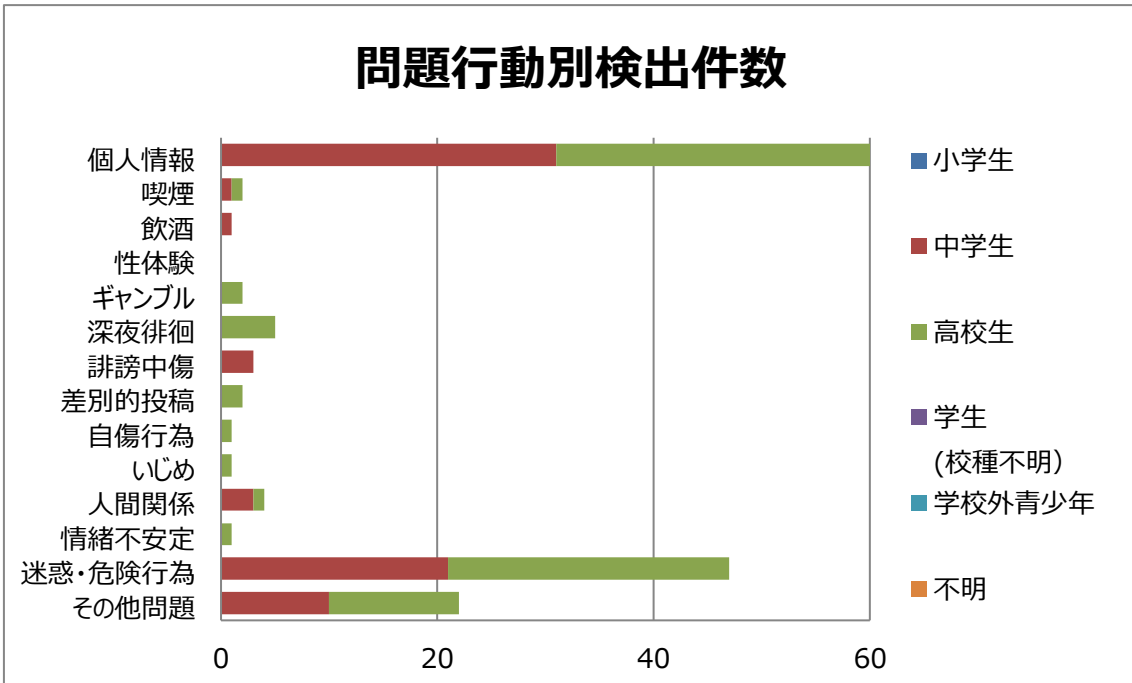
5月の検出件数は **70** 件でした。



### 学校種別検出件数

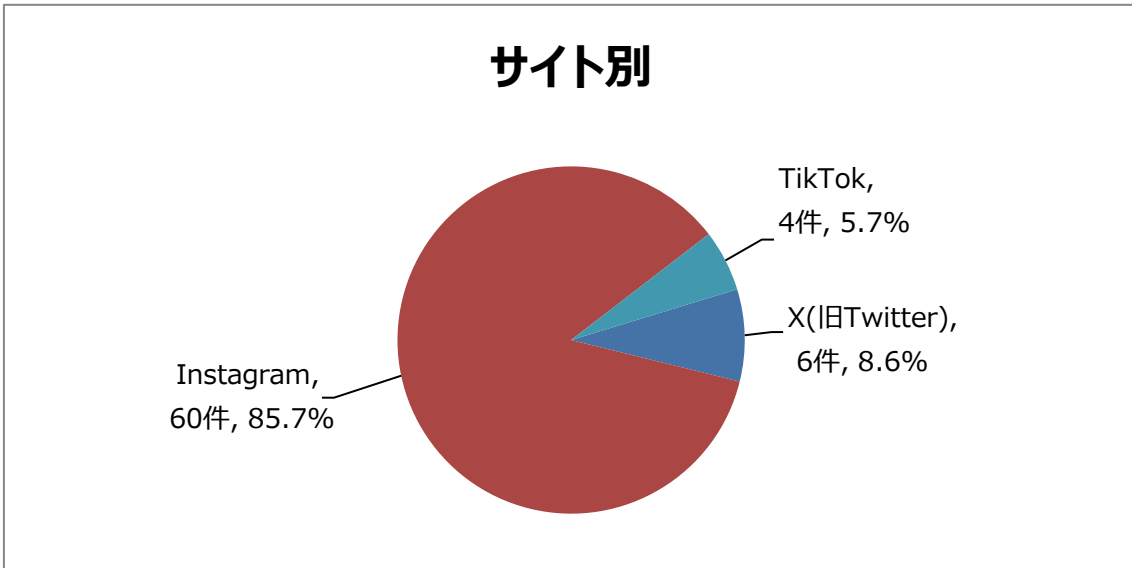


### 問題行動別検出件数





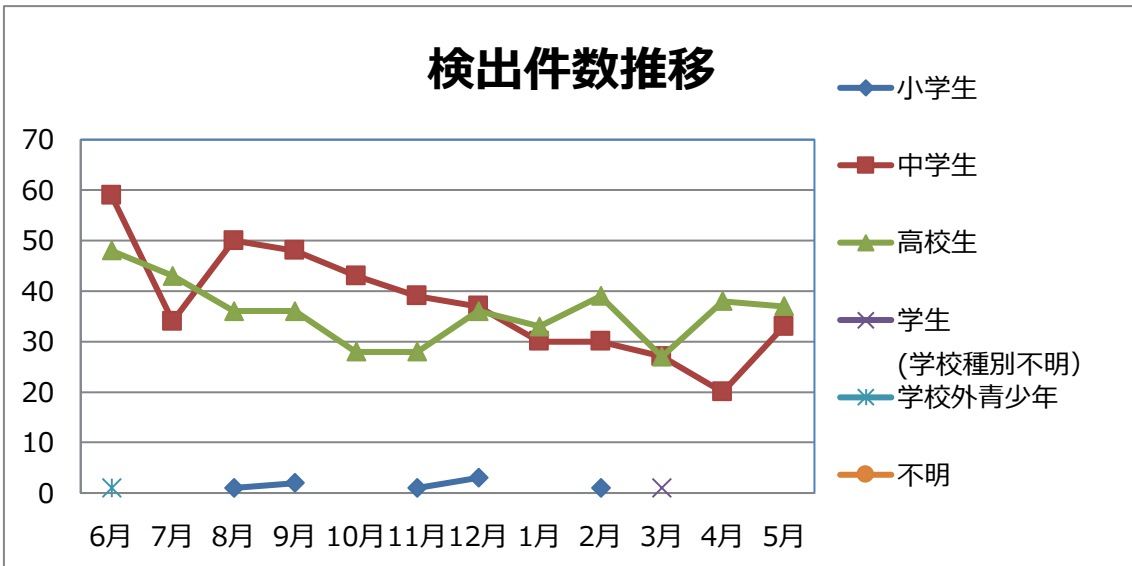
## サイト別



※四捨五入のため合計が100%にならないことがあります。



## 検出数推移



以上